



# 日本カトリック看護協会会報

No. 11

発行者 井深八重子 (本部) 東京都新宿区下落合 260 聖母病院内

編集者 場崎ひろ子 (編集部) 東京都北多摩郡清瀬町 ベトレヘムの園内 TEL 清瀬-26

1959. November

## 靈的講話

### 償と看護 松村 晋和

中国の昔語りに「走屍」と云うことばがある。「走屍」というのは生きている人を追いかける死体のことである。相手がじつとしておれば死体も動かない、しかし逃げると追いかけるのである。(中国史談より)突飛もない話ではあるが、苦しみと償の事をこれから思い出させる。苦しみと云えばカトリック信者は償を考える。償と云えばその中に必ず苦しみを考える位、この二つは密接な関係をもつて考えられている。確かに人間の生涯の内に多くある苦しみ、誰もがもつ苦しみは神の攝理的なものである。

特にこの苦しみの内に病氣は大きな地位を占めている。この病氣はあらゆる人に及ぼされるもので、強制的な償だと

考えられている。この償いについて、また病氣について「看護」するものはよく考えなければならぬ。神の御攝理としての償を見ると、看護者は特に十字架のイエズスの償いにまで心の眼をあげなければならない。イエズスは全人類の救いのために十字架の上にて最大の償を果し給うたのである。その十字架のイエズスの御跡に従うものにとつて、他人の、特に病者のうけている償は、他人事ではなくなつて来る筈である。母がその子に代つて償いをうける事を望むまでに祈る。その心こそ、看護者の徹底した愛であろう。共に十字架の下において償い贖い給うた聖母マリアの御跡をしたうものにとつて、他人の苦しみ、償いは、共に心で祈り、その病人からうける苦しみ、その務めを果すために犠牲を、償としてうけつゝ、共に捧げなければならない。他人、特に病める者の至らぬ点、不平、不満をつぶやく前にその病める者と共に償いとして、凡てを捧げる事こそ愛の天使と呼ばれる「看護」する者の務め、即ち靈的義務ではないだろうか。

一体、どうしてこの世には不平不満つぶやきが多いであろうかと思われる位に、それらを毎日聞いている。一日たりとも、誰からも、聞かなかつたと云う日はないだろう——その内に自分自身のも入っているだろうか——

ともかく、このような世の中において、看護婦の使命を知り、務めんとするのは、それをうける度毎に、重大さを考えるべきである。たしかに、看護婦の職務くらい、見も知らなかつた、縁もなかつた他人から、苦しみや、ぐち、不平不満を聞かされ打明られる職務は、司祭を除いて余り他に例をみない。このようなときに、看護婦が一諸になつて、不平をこぼしていたら、一体、病人はどうなるだろう。それこそ、精神病院を減らすどころか、増やすようなものである。聖母マリアのように、共贖者であらせられた聖母マリアのように、看護婦は、それら病人の償を共に償うものである。これを知つたならば、彼らに希望と力と扶けを与えてやらなければ、何の使命があるだろうか。夏の大会において荒井司教様が話されたように、看護婦ほど、重大な使命をもち病人に頼られていながら、世の人々に疎んぜられている職務はない。而しこのみじめさこそ、神の寿し給い望む所なのである。事実、健康なときには、看護婦と云う職務を見向きもせず、軽んじていた人が、病いになると、うるさい位に「看護婦さん、看護婦さん」と、その必要性を利用する。こんな事も、看護婦にとつてなんと大きな犠牲だろう。そして償いなのだろうか。けれども、そうあつてこそ、神が嘉し給うのである。靈的に深さを求め、徳をつもうとするならば、「看護」につくものこそ、病める者と共に高くそして深くなる機会をもつものは少い。いま、よくそれを考え、黙想し、行う事を、我らの主イエズスは望み給うのである。



Raffaello の絶筆「マドンナ」

# 看護研究

## 陳旧性精神分裂病患者の生活指導

私が述べようとする。此の病棟は入院患者数約五十名、うち四十名が分裂病患者です。

最近活潑に行われて居る、生活指導、レク、及び作業療法などが他の病棟に比べて、相当沈滞したこの病棟を活潑な明るい環境にする為に私共は改めて病棟の細部に亘つて観察して見た、まづ気付いた事は、私達の看護は稍々活潑にうごく患者を多く対照として注目し、無偽怠惰

患者は往々にして忘れられ勝ちの存在であり、又活潑な患者との日常生活に於いては圧迫感を受けて居る様な空気も感じられた。まづ、無偽怠惰や精薄の患者のみを十名同室へ集め病棟看護婦十名で交互に生活指導を試みて見た。ただ、其の日の勤務割で生活指導に実際に当たる看護婦は毎日三及至四名で、積極的に指導開始したのは今年に入ってから簡単な中間発表程度ですが、先づ最初に生活指導を始める前の患者の状態の概略を述べると、十名全部分裂病患者で内二名が精薄と潜伏梅毒を合併して居ます。患者の発病後の年数は

一年半が1名	四年が1名
五年が2名	六年が3名
九年が1名	十年が1名
十一年が1名	

年齢は大体二十四、五才から三十二、三才迄で、その一貫した病状としては、寡言、緘黙、自閉的、好癖で感情に乏しく中には幻聴、幻視、独語、放歌等があり、又外界には無関心で拒食が続き興奮時には、多辯、多動、短気で屢々他の患者との衝突もありました、所謂何所の病

院でも見られる様な陳旧性分裂病の方ばかりです。

治療としては、今迄に電撃療法が長い期間行われて居たため、強い電撃恐怖症を示す様になつた患者もあります。其の他ロボトミー、マラリアによる発熱療法、又はインシュリン、シヨツク療法とか、或はクロルプロマジン療法も使用して居ます。電撃療法を施行している間は状態が落付いて居る様に見えたが治療を止めると又元の状態に帰る事が度々見受けられた。

生活指導開始時も二、三は治療を継続して居たが徐々に止めて頂き現在ではクロルプロマジン療法のみを併用して居ます。次に十名の患者の積極的な生活指導に依る動きについて

【I表】

表示の通り、生活指導前は唯「食事」のみ自発的な数字が出て居ますが指導後は自発的な行動が目立っている事と反抗的な数字が出ているのも興味のある現象と思います。

私達は単に生活指導のみを行うよりも患者達が自発的に興味を持ち得る様な、レク、作業をも同時に併せて実施する方が生活指導の結果に好影響をもたらすのではなからうかと考えて

【II表】

少し無理かも知れないとは思つたが早くから表IIに掲げた様な色々な、レクレーション、作業療法等をさせて見た。

大体毎日午前中一時間午後一時間位指導して見ました。次にこの項目について簡単に説明致します。

(一) カルタ取り。看護婦がカルタ又は百人一首を持って病室へ入り皆んなを誘いかけますが最初は仲々応じ様としませんでした。又グループに入つても、今取るべきものが判つて居ても手を出そうとせず唯そのカルタをじつと見つめて居るだけでした。でも回数を重ねて行く内にだんだんと活潑に取れる様になり此方から「今度は読んで下さい」と頼むと、小さい声ですが読める様にもなり今では「カルタ貸して下さい」と云つて詰所に取りに来る様になり、患者さん達だけで遊んで居ます。

(二) 折紙に得意な患者さんが居まして、看護婦や自室の患者さんに「教へて上げるから、折つて見なさい」等云つて皆んなで折る時もありますが気分むらが多く此方から頼んで見ても教へてもらえないばかりか、却つて「うるさい」と、叱られる時もありました。ですが大皆んな丁寧で小さい所まできれいに折れるようになり今の所皆んな同じ物ばかり折つています。

(三) 裁縫は患者さんの方から度々「縫わせて下さい」と云つて来られますが、簡単な物で、雑布、とかシーツの綴付の様なものしか出来ません。丁寧すぎて時間がかりすぎます。一度等はどうしても自分の着物を自分で縫うからと云つて聞きませんので全部縫える様にして渡しました所、自分で着て居る着物を腕いで布と見比べていましたが、どこに袖を付けるのか又補はどのように付けるの等不思議に聞かれ、自分で観念したらしく此の着物と同じ様に縫つて下さいと、云つて渡された事がありました。

(四) レース編は一寸むつかしいと思いましたが患者さんに聞いて見ますと、前にした事があるとか何んでもして見たい等云う人があり始めて見ました。がやはり簡単には出来ませんでした。唯一人大体まとまつた編方をして居ますが短時間

I 表

項目	生活指導開始前の状態				生活指導後の状態			
	自発的	受身的	無関心	反抗	自発的	受身的	無関心	反抗
起床	5	5			7	3		
布団整理	3	7			5	5		
洗面	4	6			5	4		
歯磨	3	7			4	5		
調髪	3	7			5	4	1	
食前準備		10			1	3	6	
食事	2	5	3		4	5		1
食後片付		10			2	2	5	1
入浴	9	1			1	9		
更衣		10				7	3	
洗濯	1	9			2	6	2	

II 表

種類	興味有	興味無	身拒絶反			
			受	身	拒	絶反
カルタ	4	1				
折紙	3	2				
裁縫	6	1				
レース編	4	4				
食器磨き	5	1			1	1
散歩	9				1	
写生	4	2			3	1
パーレボール	4	4			2	
花壇	4	2			4	
映画	9	1			4	

でいやになりますので毎日少しづつ指導して居ます。今花瓶敷の物が編めました。他の人は実物迄は仲々出来そうにありませんが今でも「編ませて下さい」と云つて材料を取りに来ますので続けて居ます。

(五)「食器磨き」これは炊事場に行くで致しました。最初はきよきよと炊事場やその人の行動を眺めたりして居ました。初めての場所、初めての試みですので私達も一寸不安な気持ちで連れて行きました。そして「皆んなにどうですか、磨けますか」と声をかけますと、だまつて居るよりはこれ位の事なら出来そうですからと答へる人が案外に居ましたので安心しました、又答へなくても明るい表情で磨いて居る様なので暫く続けて見ました。丁寧に磨けますが此方からもう次の器に取替へても良いでしょうと声をかける迄一枚を磨いて居る人もありました。最初は大体皆んな一時間の枚数が同じだったが日数がたつにつれて多くなる者と少なくなる者とに別れた。一週間位して一人磨いて居たのが急に立ち上り「此んな事するのはいやです」と云つて、病室へさつさと引上げてしまつた者も出ましたが、患者の要求によつて作業の後でお八つを頂いて居ましたので最後迄頑張つて居た様です。

(六)散歩は大体皆んなが一歩楽しみにして居た様です、初めは十名だけを連れて行つて居りましたが今では他の病室の人と一緒に居ます。お天気の良い時等「今日は何処かへ行きましょう」と云つて声をかけに来たり又朝から身だしなみを整へて待つて居る事もあります。

(七)写生。初めは誘ひますと、「私は書けません」とか「下手ですから」と云つて仲々応じ様としなかつた。唯一人二人だけが「書きます」と云つて積極的に

来るだけだつたが今は一人の拒絶者をのぞいて皆な一応のクレオンを使う様になつた。写生に連れて出ても空想画を書く人が二、三居ます。色は大体原色を使う人が多く、或る人等は生理前と生理後の画を比べて見ると随分変化のある画を書いて居る事が判りました。

(八)バレーボール。看護婦や同室の人としている時は割に活潑だつたのが、だんだん活潑な人が加わると消極的になり自分の前に飛んで来たボールにさへ手を出そうとせず何時の間にか居なくなつてしまいます。

(九)花壇。草むしりはわりに長い時間無言でして居ますが耕す事やその他の事になると出来なくなり看護婦のする事をじつと見ているだけです。

(十)映画について「興味ある」の所へ「6」の数字を出して、尋ねてみる。皆んな一応スクリーンに目をやりますし判つたのか、判らないのか、「どうですか映画好きですか。」と云へば「ハイ」と答へ「面白いですか」と聞けば「ハイ」と云う「判りますか」と云へば「ハイ」と答へるといふ具合で本当の事をつかむ事が出来なかつた。

この短期間に行つた生活指導療法を省察してみても次の様に患者の状態が次第に変つて来ていた事に気が付いた。

(1)無偽の患者は忘れ勝ちの存在であつた為一部屋に集めて生活指導をする方が注意も行き届き、患者にとつても良いのでは無いかと思ひ注目の状態に置く様にした。

(2)意欲活潑な人達と一緒に運動などをさせて見ると、大声で注意を受けたりすることに劣等感を感じる為か、活潑な人にゆづる傾向が見られた。しかし同じ程度の病状の患者同志で運動をさせると比較的に活潑に運動をする傾向に向いて行く

様です。

(3)自己表現や要求が、前には全く無かつたのに、最近では余り活潑ではないがそれでも簡単な意志表示をするようになりました。此れ等も同程度の患者を集めて生活指導したのが良かったので無かつたかと思ひます。

(4)無偽であつた為どの様な事が出来、又どの様な事を望んでいるか判らなかつたのが、レク、作業を共に早く取入れたため、各人のそれぞれに出来る範囲の仕事又はレクの内容をつかむ事が出来て、患者の嗜好が分り、それを利用して患者に接近する機会が可成りつかめる様になつたのも大変役立つと思ふ。

(5)無偽の患者を集めた事によつて迄行動活潑な患者から受けていた一種の圧迫感から開放されて、態度や行動にも自信を持つて来た様に見受けられる様になつた。

(6)今迄忘れ勝ちな存在の患者を集めて生活指導するために、看護婦全員が協力して指導出来る様によりチームワークをつくり、日課として毎日続けることにした点等が良かったと思ふ。

(7)生活指導を始めた当時は、云われるまゝにどうにか働いて居たのが近頃では反抗する、不平を云ふ、などの意志表示をする様になつて来た。これは生活指導の効果の賜と云へない事は無いと思ふが、併し此の点は今後共、看護する上々に注意して行かなければならない何物かを含んで居る様に思ふ。

此の様に短期間の間にも上つた効果を反省して、私共看護婦は、「計画的に行われた生活指導療法」の重大さを痛感すると共に、その義務の重大性を再確認して此の発表を終ります。

(松山精神病院 森 脇 静 江)

精神病の常識と看護	白木博次	200
精神病看護の理論と実際	関根真一	300
看護研究の手引	永井敏枝	240
精神科看護の研究	武蔵療養所 看護研究会	320
ナースのための精神衛生	土井正徳	400
結核患者の精神衛生	国立療養所結核 精神衛生研究班	1,000

- ▶ 月刊 看護学雑誌  
1部 ¥100 1年 ¥1,200
  - ▶ 月刊 保健婦雑誌  
1部 ¥100 1年 ¥1,200
  - ▶ 月刊 助産婦雑誌  
1部 ¥80 1年 ¥960
  - ▶ 月刊 看護教室  
1部 ¥50 1年 ¥600
- 年極前金読者に美麗綴込用表紙贈呈

## “処女にして母”なる看護婦

マリアは自分のことを“主の婢女”と呼んでいます。それこそ、凡ての女性の姿なのです、およそ女性が“主の婢女”でない場合は威信が低められます。

女性が最も不幸な瞬間は、人に与えることが出来ない時であり、最も憎むべき瞬間は、与えることを拒むときです。

女性が世界のために祈り、病者を看護し、自分の子を育てるとき、彼女は健全さを感じます。何故ならこういうことによつて神への協力という使命を果しているからです。

そこでレオン・ブローア（フランスの思想家1846～1917）がいつたように「女は聖なるものとなればなるほど、一厘女となる」

(F・シーン、見よこの女性を)



### 支部便り

#### 四国支部（松山精神病院）

本部の皆様ご活躍の事と存じます。  
昨年6月会の発足以来、看護婦も9名から23名と増加し今迄の月一回の集会を毎週一回持つて「霊的講話」「研究」の他にレジオの様に ① 貧困家庭の訪問 ② ラ、物質の配分 ③ 日曜学校・病人の見舞 ④ 求道者の指導 ⑤ 各病院への働きかけ ⑥ 会の発展の為のロザリ

オー環つづ誦えるなど会の活動も変つて来ました。24日、役員会改選の結果、次の通りとなりました。

支部長 金子サキ 書記 高木万里子  
会計 森脇静江

暑休み中、会員は活動目標①に準じて病院近辺の保護家庭—170軒—を各自分担、ケース記録片手に、自転車、徒歩でそれぞれ戸別訪問を行った。あらかじめ民生委員の方から家族の年齢・家庭状況など伺つて適したものをそれぞれ分類して持つて行きます。

さきに地方紙に J.C.N.A の活動報道されていたので市民も協力的でした。中には何しに来たかと白い眼で見られたり、そつちから入つちや困る、などと怒鳴られたりしたこともあつて、ひとくちに援助と申しても素直に受入れられない場合など、祈り乍らしなければ本当によい仕事は出来ないと思つたのです。九月にはそれぞれの報告を持ち寄つて再び新しい活動に踏出さうと存じます。

## 看護基準

### 国立東京第一病院 看護研究会編

この本は病院内の看護手順を統一することを、第一の目的として作つたものです。それは看護婦の勤務交代及び看護学生の実習の折、どの病棟についても看護業務の円滑がはかられ、看護婦が自信を以て業務に携わつたり神経の浪費を防ぐことができます。また学生の実習指導の一助ともなり、看護業務上の参考資料としても役立つものと思ひます。

なお、これを作製するに当り、当院の看護婦が病棟毎に5年にわたり研究をつづけ、この結果ようやく昨年まとまつたものです。

もちろんこの基準が他のどの病院にもびつたり当てはまるものではないと思ひますが、これを発表することによつて少しでも看護業務の上に参考となり、役割が務められれば幸と存じます。

(国立東京第一病院総婦長 大野菊術)

B 6 判 484頁 図290 写真20 850

### — 主要目次 —

- 内科 各種検査の準備及び介助・特殊処置の介助法（症例別看護法・退院時の指導）
- 結核 患者指導・喀血の看護・人工気胸気腹の介助・気管支鏡検査及び気管支造影の介助・左右別肺活量測定の介助・肺切除患者の術前・術後の看護・小腸環膀胱吻合術の介助・小児結核患者入院中の生活指導
- 手術室 手術室勤務の心得・消毒について・手術材料・手術患者の体位について・雑用看護婦の業務・麻酔の介補・ギプス包帯の介補
- 整形外科 一般整形外科療法に対する看護・骨折の看護法・術前術後・術後の機能訓練・物理療法
- 産科 一般看護・分娩・新生児
- 婦人科 婦人科手術時の剃毛範囲・婦人科手術後の導尿について・術前・術後の約束指示・各種手術及び看護法
- 末熱児 定義・看護法・出生時の看護・入院時の取扱い・観察事項・日常の看護・退院時の取扱い・保育器
- 耳鼻科 特殊な処置及び看護法・疾病別看護法
- 隔離 隔離於ける消毒法・伝染病棟における清潔と不潔・ガウン・テイク・患者の入退院の取扱い法・看護婦業務内容・看護処置に必要な特殊事項・主な看護処置及び介助法・主なる細菌検査
- 外科 処置の準備及び介助・各種検査の介助・疾病別看護
- 皮膚科 泌尿器科 眼科 神経科

東京・文京・本郷 医学書院  
TEL 92-1101 振替東京 96693